

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 11 月 6 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3871000281
事業所名 (ユニット名)	グループホーム ユニットいよ A棟
記入者(管理者) 氏名	西岡 祥太
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 18 日

<p>【事業所理念】</p> <p>和らかい言葉、温かい雰囲気、安心できる居場所</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>目標① オートロックについて、来訪する地域の方やキーパーソン以外の家族への理解が得られるよう、屋上への散歩や外出なども行うことを説明し理解を得る。→運営推進会議では、出席者に説明行い、理解を求めた。普段、来訪しない家族へ手紙や電話、いよ便りで安全確保の為、施設の構造上ロックしている事を説明し、理解を求めた。</p> <p>目標② 運営推進会議に、家族が参加しやすいよう働きかけを行う。→コロナ禍となり、なかなか難しいところがあるが、家族へ情報提供をしながら、開催の曜日を土日祝にするなど、工夫していく。秋祭りでは、参加を呼びかけて多数の家族が来所し、利用者と親子で触れ合う時間が持った。</p> <p>目標③課題や計画に沿ったモニタリングが行えるようになる。→他事業所の様式を取り入れ、計画内容を確認しながらモニタリングを記載し、閲覧もしやすいようにした。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>連携医療機関が隣接しており、緊急時の対応や看取り支援にも対応することが可能なこともあり、利用者は安心して生活を送ることができている。職員は理念をいつも念頭に置き、利用者一人ひとりを大切にしながら、利用者の視点に立ったアセスメントを行い、日々のケアに取り組んでいる。代表者や管理者は、職員との面談を取り入れ意見を反映するなど職員が働きやすい職場づくりに努めていることもあり、職員は明るく働きやすい職場であると感じることができている。職員は、優しいさりげない言葉かけをしながら、利用者の穏やかで楽しい生活を支援している。誠実な人柄の管理者は、利用者に対する職員の素晴らしい対応を見逃すことなく褒め、職員の育成やスキルアップにつなげていくほか、職員一人ひとりの長所や特技を活かしながら、その力を発揮できるよう導びくことにより、職員の働く意欲の向上に繋がっている。また、管理者と職員は、同じ目標に向かって団結・協力し合い、生き生きと日々の業務に取り組むことができ、利用者の笑顔からも窺うことができる。</p>
--	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	本人・家族の声をしっかりと聞き、希望や意向を把握できるようにしている。また、面会時でも家族に様子を伝えている。	○		◎	職員は、日々利用者とコミュニケーションを図る中で、思いや意向を聞き取っている。言葉を話せない利用者には、家族からも生活習慣を聞きつつ、職員は利用者本人が「今一番必要としていることは何か」を表情から汲み取り、話し合いながら把握できるよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	家族から、若い頃・元氣な頃の生活歴を聞いて、情報を把握している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入居時や面会時など、家族とのコミュニケーションを大切にしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	これまでの生活歴や、お聞きしたり、会話の中から発見した事をアセスメントにまとめている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の言葉だけでなく、動きや様子、表情にも注意し、隠れたニーズに気づけるよう注意している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居前の面談から、本人・家族・ケアマネ等に生活歴や趣味嗜好をお聞きしている。お聞きしたことをアセスメントにまとめて、各スタッフに確認してもらっている。入居後も、本人や家族から関わりの中で、お聞きしている。			◎	自宅から事業所へ直接入居する場合は、利用者本人はもとより、家族からもこれまでの生活状況などを詳しく聞いている。病院から直接入居となる場合には、病院の地域連携室等の職員から利用者の生活状況や入院までの経緯などを聞くほか、サマリーなどの提供を受けて情報を把握している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	普段の関りを通して、出来る事、出来そうな事を見極め、本人や家族の意向も踏まえて、生活に取り入れ、希望者には生活リハビリの提案も行っている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	本人との会話や、他者との関わりに対する反応等から気持ちが変わる場合の理由やタイミングを把握し、支援に反映できるようにしている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	本人の様子について、常に原因を探り、スタッフ間での情報交換もしながら、症状だけでなく、原因を解決できるように掛けている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	利用者それぞれ、生活リズムに違いも見られるため、可能な範囲で、それぞれのリズムを尊重し、他者に合わせるどころメリハリをつけられるよう注意している。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	アセスメントだけでなく、日々の関りの中から出てくる新しい発見も、申し送りやケアカンファレンス時にスタッフ間で共有して暮らしの中に取り入れる事を考えている。			○	管理者を含む職員全員は、常に利用者の立場でケアを進めていくことを基本としている。利用者や家族等の意見を反映し、カンファレンスなどを活用して職員間で話し合いをしている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	本人・家族に意向を確認しながら、時にはスタッフからも提案を行って、本人らしさを感じられるよう配慮している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	普段の生活の様子を元に、本人や家族の希望を踏まえたアセスメントを行い、他職種でのカンファレンスで課題を確認している。				

愛媛県グループホームユニットいよ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	心身の状態に関係なく、その人らしさを少しでも見出せるように検討している。				日頃から、一番利用者の近くで接している職員は、利用者の現在の様子を理解し、介護計画の中に必要なサービスを組み込むことができている。家族の面会時には、職員は「利用者がより良く暮らせしていくためには、どうしたらよいか」を尋ね、出された意見を反映している。また、介護計画の作成時には、利用者や家族、職員などのそれぞれの意見をまとめ、工夫やアイデアを取り入れることができている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人・家族の想い、普段の生活の様子やADL向上へ向けた提案、好きな事や興味のある事、様々な事に目を向けながら優先順位も検討して、プラン作成をしている。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	たとえば寝たきりになったり、終末期に入っても、その人が望む生活や、家族との関わり・時間・繋がりを大切にもらえるようなプランでサポートする事を心がけている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の人たちとの協力体制は、なかなかいつも実現は出来ないが、例年は、運営推進会議や、秋祭り、運動会等において、交流する機会は作れている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	利用者個人の日々の記録にケアプランも記載し、確認できるようにしている。ケアカンファレンス時に再確認しながら共有している。			○	介護計画の内容は、日々の支援の記録をする際にも、職員は確認できるようにしている。ケアカンファレンス時にも、職員間で介護計画の共有を図るとともに、定期的にモニタリングを行い、今後の支援内容に反映できるよう努めている。また、誰が読んでも分かりやすい記録になるように職員は、「とても機嫌が良かった」「ゆっくり食べることができた」など、利用者のありのままの様子を記録に残すようにしている。職員の気づきや工夫、アイデアなどは個別のファイルに記録し、職員間で共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	定期的なケアカンファレンス時に実施状況を話し合い、確認をし、今後の計画・支援内容に繋げている。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	本人の言葉や行動をありのままに、毎日経過記録に記載。記録には個人差がある。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	モニタリング表に担当者が気づいた事を、3ヶ月毎に記録しているが、工夫やアイデアは少ない。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	半年毎に、アセスメント更新し、日勤スタッフがカンファレンスに参加し、プランを見直している。当日参加できないスタッフにも会議録やメモ書き等で、気づきや変更点を伝えている。			◎	介護計画は、6か月に1回見直しをしている。計画のサービス内容が頻繁に変わることもあるが、職員は利用者の現状確認をきちんと行うことができている。また、利用者が入院した場合は、退院後に新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	担当者他が、モニタリングを行い、現状確認をしている。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院他、状態の変化が生じた場合は、家族に報告しながら新たな計画を作成している。出来上がった計画は、ご家族に確認頂き、署名頂いている。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月1回、スタッフ会議を開き、問題を検討・解決している。緊急案件に関しては、朝のミーティングで話し合っている。			◎	緊急性のある場合は、その日の出勤職員で話し合い、管理者等に確認のうえで即座に行動に移している。他の職員から意見を聞いたうえで、支援を検討する場合もある。話し合った内容は会議録に残し、職員は出勤時に必ず目を通すようにしている。また、職員はいつでも会議録を確認することができる。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	テーブルを囲み、午後の落ち着いた時間に会議を開いている。1人1回は発言する機会を作っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	新型コロナウイルス感染防止の関係もあり、日勤スタッフのみで会議をしている。グループホーム外では開催できず。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	参加できないスタッフには、あらかじめ意見・質問を聞いておき、会議で検討。会議での決定事項をまとめ、ファイル保管。スタッフがいつでも閲覧できるようにしている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	生活面は(ケア)シートファイル、医療面は医療連携シートファイル内に各利用者のシートがあり、生活面・医療面ともに情報を共有・周知できるようにしている。			◎	各シートファイル内に、利用者ごとのシートがあり、職員間で情報共有できる仕組みづくりができている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	毎朝、始業時に日勤者全員が事務所又は事務所横に集合し、当日のリーダーが申し送り事項を読み上げる等、重要な情報も伝達・確認している。午後からの出勤者にもリーダーが必要事項を伝えている。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	希望が言える利用者については、できるだけ叶える努力をするが、認知症の為に、希望を言えない利用者も多く、不十分な点があると思われる。	/	/	/	日々の生活の中で、職員は利用者の思いや意向を聞き、できる限り支援している。認知症や重度化した利用者からは、思いや希望を把握することができないことも多くなってきている。利用者の入浴後等には、着替えやおやつ、飲み物などを利用者を選んでもらうことができている。職員は、利用者の残存能力を活かすことを意識しながら、利用者を褒めることや感謝の気持ちを伝えることをいつも心がけた支援をしている。洋裁が趣味や手伝うことが好きな利用者もいるため、職員は利用者一人ひとりの良いところを見つけながら、膨らませていけるような言葉かけをしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	可能な範囲で、自己決定する機会や場をつくっているが、自己決定できない利用者も4～5名おられる。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人の希望を聞き、洗濯物たみやお膳拭き、自室の清掃等をしていただき、力を発揮できるようにしているが、希望を伝えられない利用者も多い。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人の希望やペースを尊重している。全介助の利用者も多く、希望を聞くのが難しい事も多いが、できるだけゆったりした時間を大切にしている。特に、食事では、本人の希望を踏まえた介助を心がけている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	コミュニケーションを大切に、笑顔が多くみられるような雰囲気作りをしている。会話の中に、昔懐かしい話題を織り交ぜたり、傾聴し感謝の気持ちを大切にしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や声からいつもと変わらない事を観察し、温かい雰囲気の中で穏やかに過ごせるよう気配りをしている。声を掛けられた際の反応や表情から意向を読み取る事も心がけている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊敬」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	職員は理念に沿って行動し、常に利用者様を大切に思うことを心がけている。また、新人職員は新卒・中途に関わらず、法人として職員研修プログラムにより、相手を尊重して支援する事を学ぶ機会を作っている。	◎	○	○	職員は、事業所の理念を常に意識しながら、利用者一人ひとりを尊重し、丸く和らかい言葉かけを心がけている。居室の入室時にはノックをして話しかけるほか、退室時に職員は、「失礼しました」「ありがとうございました」と伝えている。居室に利用者がいない場合にも、職員は利用者に入室する確認を取り、退室後もきちんと声かけをしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	特に入浴介助、排泄介助では、常に周囲にも気を配り、声の大きさにも気を付けている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴介助や排泄介助時、バスタオルや腰掛けをうまく使っている。車いす対応の場合、入口のカーテンを開けて、プライバシーに配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	訪室時は、必ずノック後、本人の了解を得て入室するようにしている。(訪室が分からない利用者に対してもノックと声掛けは行っている)	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入社時に、仮に退職した後も個人情報を遵守するよう、誓約書を交わし、新人職員への職員研修プログラムでも個人情報を漏洩しないよう、具体例を挙げて予防に取り組んでいる。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者に洗濯物たみやお膳拭き、その他の軽作業をしていただいたり、昔の話や風習を話してもらったりする事で年長者ならではの考えを覚えていただいている。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりの思いを考慮し、できる限り良好な人間関係が築けるよう支援している。利用者同士の関係性がこじれ、空気が重くなった場合には、ムードメーカー的な利用者が「そんなこと言われん」となだめて仲裁する場面も見られ、職員が肩をなでおろすこともある。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	毎日顔を合わせる利用者同士の繋がりを大切に考えている。また、同年代だから分りあえる事があることに注目し、スムーズな掛け合いができるようサポートしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	職員は必ず一人ひとりに声を掛け、利用者同士も人間関係がうまくいくように支援している。ちょっとしたズレで口論やトラブルに発展しないように、職員が間に入って取り持ったり、場合によっては、その都度、席の配置を変更する事もある。全体のバランスも考慮して対応している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	それぞれの思いを大切に、必要な場合、互いに納得がいくようにサポートに入っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	キーパーソン、家族構成、生活歴、趣味や嗜好を把握したり、以前からの人間関係を大切にしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族の話も聞きながら、情報を集め、把握して利用者との会話や関係作りを活かせるよう努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	現在は、コロナ禍のために、ボランティア等も中止している。外出の機会も少ない。利用者によって、周辺症状が強く影響し、精神的に不安定になるリスクが高い場合は、家族の顔を見に、外出支援する事もある。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	現在は、感染予防の為に面会を予約制にし、10分程度としている。通常は、キーパーソンの意向を踏まえた上で、対応している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	新型コロナウイルス感染防止の為、多くの利用者が外出するのは非常に難しいが、天気の良い日には、屋上に日光浴に行けるように心掛けている。感染症対策開始前までは、季節を感じて頂けるよう、ドライブにも誘っている。	×	×	△	日頃から、事業所近くにある五色姫海浜公園まで散歩したり、市内の旧双海町などにドライブして出かけられるよう支援している。季節に応じた外出をすることも多く、桜の咲く時期には、市内になる称名寺に花見に出かけることもある。現在は新型コロナウイルス感染症対策のため、利用者の外出は自粛しているが、職員は利用者と一緒に建物の屋上にエレベーターで上り、海の景色を眺めたり、飼っている犬やうさぎとたわむれたり、プランターで育てている野菜の成長を見守ったりするなど、利用者の楽しみにもなっている。また、屋上にはエレベーターを利用して段差なく行くことができ、車いすを使用している重度の利用者も外気に触れ、気分転換ができています。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	新型コロナウイルス感染防止の為、地域の人たちとの外出が出来ていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	重度の利用者も多く、なかなか困難だが、天気の良い日には屋上へ日光浴に行くように心掛けている。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	新型コロナウイルス感染防止の為、遠くに外出することが出来ない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	朝のミーティングや内部・外部研修を通して、認知症の理解を深め、良い点・改善点を共有する意識を持つようになっている。また、認知症介護実践者研修にも積極的に参加し、職場実習を通して、チームで考え、対応するようになっている。	/	/	/	利用者は、レクリエーションで貼り絵をしたり、コスモスを生花にして飾ったり、食後にお盆を拭いてもらうなど、利用者に応じた役割や場面を作っている。紙芝居や新聞、借りてきた本が自由に読めるようにするなど、職員はアイデアを取り入れて工夫した生活環境づくりをしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	内部・外部研修等で、認知機能や身体状況の機能について、理解を深めている。利用者の日常生活環境や状態を把握出来るように努めている。心身の機能や症状から認知症の周辺症状に繋がっていないか等、認知症との関連性についても観察する意識を持って、対応している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	重度の利用者が負い為、なかなか難しいが、出来そうな利用者には、洗濯物たたみやお盆拭き等、軽作業を勧め、ホーム内でのそれぞれの役割を感じてもらえるよう配慮している。	○	/	△	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	アセスメント情報をもとに、個々の生活歴を把握し、本人らしく楽しんだり活躍できるように努めている。	/	/	/	職員は、利用者の楽しみごとや役割、出番が何かを考え、一人ひとりの状態やレベル、生活歴に沿った活躍のできる場などを設けている。レクリエーション時のテンポリーダー役を、利用者をお願いすることもある。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	認知症の種類や症状、障害のレベルを把握し、日常生活の中でその力を活かせるように支援している。また、コミュニケーションをとりながら、発語を促し、穏やかに過ごしてもらっている。	○	○	△	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	新型コロナウイルス感染防止の為、外出する事が難しく出来ていない。	/	/	/	

愛媛県グループホームユニットいよ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自己決定できる利用者は、好きな洋服を着て頂いている。また、契約までに、家族から好みの服などがないか、伺っている。				職員は、食後に利用者の食べこぼしをさりげなく拾ったり、口の周りをきれいに拭きとったりするなど、フォローをしている。重度の利用者にも毎朝更衣をしてもらい、一日の始まりが分かるようにしている。髪などの整容を整えたり、2か月に1回訪問理容で散髪をしたりすることも支援している。また、職員は洋服の汚れにも気を配り、必要に応じて着替えの介助をしている。また、足の痛みを訴え、くつがサイズが合わなくなった場合には、介護用などのくつを家族に購入をお願いしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人・家族と相談して支援している。必要な物があれば家族へ依頼して持ってきていただいている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員が利用者の意思を尊重し、相談・配慮している。家族にも相談して支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	新型コロナウイルス感染防止の為、外出や行事等は行えていないが、季節に合わせた服装を用意している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく、裾を直したり、食事の際に衣類が汚れる場合にはエプロンではなく、タオルを胸に掛けて食事して頂いている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人・家族に確認した上で、大半は地元の理髪店に出張理容を安価で依頼し、元々なじみの理美容店がある方は希望により、通われる方もいる。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	生活歴や家族からの情報により、本人が好むであろう物を職員で考えたり、家族と相談して支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食べる事だけではなく、見た目なども工夫し、食欲を満たす事に加えて、食べる楽しさを感じてもらおうよう、意識している。				献立の作成と食材の配達には業者に委託している。調理専属の職員が1名おり、他の職員は当番制で調理の補助しながら調理をしている。後片づけの手伝いができる利用者は、できる範囲で手伝ってもらっている。利用者の苦手な食材を変更したり、季節感のある食材やおやつをメニューに組み込んだりしている。食器は、軽くて扱いやすい材質のものを使用している。職員は利用者の食事介助を優先し、利用者の食事が終わった後に、同じ食卓を使用して利用者の様子を注意深く見守りながら各自で食事を摂っている。現在は、調理場の広さ等を考慮し、Bユニットですべての調理などの作業を行っている。今後は、米を炊くなどの一部調理をAユニットで行うなど、同ユニット利用者にも調理時の匂いが伝わるような工夫を期待したい。また、外注業者との話し合いや栄養士等にアドバイスをもらう機会を設けることも期待したい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	外部業者へ発注のため、あまり行っていないが、お膳拭きの協力を依頼するなど、出来る範囲で手伝って頂いている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	新型コロナウイルス感染防止の関係もあり、現在は行えていないが、利用者の希望も聞きながら、配慮したいと考えている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	苦手な物、アレルギーの有無などを把握して対応している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	外部業者へ発注、献立を利用しているが、行事食では、利用者の好きな物を提供している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりや器の工夫等)	○	食欲が増すように、見た目を大切に、食べやすいように盛り付けなど工夫、食器も使いやすい安全なもので提供し、最後まで食べる楽しさを大切にしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	利用者の状態に合わせた物を提供している。状態により、安全な物に変更する事もあるが、入居時は、使い慣れた箸と茶碗の持参をお願いしている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	食事介助の必要な人がいるので職員と一緒に食べるのは難しいが、一人一人の状態を把握し、テーブル上にティッシュを置いて、いつでも使えるようにしたり、食べこぼしがあっても、エプロンではなく、個人のタオルを前掛けとして使っている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	本人の状態に合わせた食事を提供し、無理のない範囲で皆と一緒に食べられるよう配慮している。		◎	△	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者一人ひとりに合わせた食事量・水分摂取量を確保できるよう支援している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	主治医や看護師と相談しながら、栄養セットや補助食品などタイミングを見ながら提供している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的な話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	外部業者のメニューを利用している。現在は、コロナ禍で中断しているが、通常時は定期的に外部業者を招いて献立や調理方法、具材について意見交換や要望を出し合い、当社の栄養士資格を持つスタッフを中心に話し合っている。			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	感染防止委員のアドバイスを受けながら、調理担当のスタッフが責任をもって対応している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	食事後には必ず口腔ケアを実施している。うがいの出来ない方には、口腔用スポンジを使用し、食物残渣が無いが確認している。				食後には、利用者に声をかけ歯磨きをしており、職員は利用者の虫歯の有無や義歯の状態など口腔内の様子の確認し、状態を記録に残している。舌は、舌ブラシを活用して磨く介助をすることもある。利用者の認知症の進行により、痛みなどの訴えは少なくなっているが、事業所として口腔ケアを重要視した支援に取り組んでいる。必要に応じて、歯科医の往診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	義歯の方には、毎日夕食後に洗浄してポリドントに浸け置きしている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問診療の際、正しい口腔ケアの方法を教えて頂き、実施している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後に、歯ブラシで洗浄し、夕食後には、ポリドントに浸け置きしている。介助の必要な利用者には、清潔を保てるよう支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	出来る方には、歯磨き・うがい等、なるべくご自分でして頂き、うがいが出来ない方には、口腔用スポンジやお口スクリシートを使用し、清潔を保っている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	痛みや不具合があった時は、ご家族に確認の上で早急に歯科往診して頂けるよう、対応を行っている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレで排泄が可能な利用者には、出来るだけ、トイレ誘導で排泄を促している。				職員は、トイレで利用者が排泄できるように支援している。以前は、おむつメーカーの担当者から、おむつなどの排泄用品の使用方法などの研修を活用したこともある。管理者は、自らおむつを履くなどの実習体験を経験したこともあり、利用者が置かれている立場や状態に合わせたおむつ必要性などをよく理解している。また、利用者のおむつ使用などの見直しがあった場合には、職員は家族に報告や相談をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	毎朝、排便チェックを行った上で、便秘薬で調整し、健康維持の為に、便秘にならないよう支援している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	時間を見て、定期的にトイレの声掛けや誘導を行うほか、不穏気味になったりする様子から、排便のタイミングを読み取る工夫をしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	トイレ内での動作(移乗や座位保持等)の安全性を確認した上で、トイレ誘導を行っている。状態によって、安全を確保できない時は、おむつを選択する事もあるが、出来る限りトイレでの排泄を促している。また、使用するパッドは、排泄頻度や吸収量から、スタッフ内で相談して随時調整している。		◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食事量・水分摂取量・運動量・服薬内容・排泄状況等を記録し、看護師・主治医とも相談して対応している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声掛けや誘導を行っている。	○	時間やタイミングを見ながら、トイレの声掛けを行っている。全盲の利用者もおられる為、温かい声掛けを行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	日動帯・夜動帯で使用するパッドは本人の希望を聞き、スタッフでも話し合いながら調節し、試している。ただ、乗者に一括して発注するため、本人の好みや排泄状況に若干合っていない可能性はある。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	その都度、本人の状態・排泄状況を踏まえながらスタッフ間で相談して紙パンツやオムツの使用をしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	朝の水分補給時には、牛乳も摂取してもらったり、レクリエーションで体操を取り入れ、少しでも身体を動かせるようにしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	その日の調子を見ながら、毎朝決めている。本人より希望ある場合には、可能な限り希望に応えられるよう支援している。		◎	○	利用者は、週2回を基本として入浴することができ、希望に応じて入浴回数を増やすこともできる。利用者の好みの湯の温度や一番風呂などの順番、湯に浸かる時間など、職員は利用者一人ひとりの希望を聞き、可能な範囲で対応ができています。職員は、利用者の身体の清潔保持にも気を配りながら、入浴支援ができています。また、家族のアンケート結果から、職員の入浴支援に安心安全を感じている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	1人ずつ、スタッフがマンツーマンで入浴している。足浴等も行って、リラクゼーション効果を得られるよう支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	自分で行えるところは、なるべく自分で行っていただくようにしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	一度、拒否された利用者には、時間をおいて声掛けしたり、他スタッフが声掛けしたりしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴される利用者のバイタルチェックし、その日の状態を観察しながら行っている。状態的に不安があれば、看護師に状態報告し、意見をもらって対応している。				

愛媛県グループホームユニットいよ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤者からの申し送り等を聞きながら、個々の状態を把握している。	/	/	/	職員は利用者の体調に考慮しつつ、日中は共用空間でゆったりと過ごせるように配慮している。レクリエーションの参加や屋上での散歩などを促して活動量を増やし、利用者が安眠できるよう支援している。現在、安眠のため薬を処方されている利用者もいる。服用している利用者にも、薬が効きすぎないように主治医や看護師と連携しながら、対応できている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	レクリエーション等の声掛けをして、無理のない範囲で体を動かしてもらい、日中の活動量を増やしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	申し送り等も参考にして、スタッフ・看護師・主治医と連携して支援している。主治医に相談するまでに、生活の中で出来る事を探したり、夜間の利用者への声掛けにも注意して利用者が安心感を得られるような支援をしている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者によって、午前・午後で居室で休んでいただけるようにしている。ホールで疲れた様子があれば、声掛けして心身を休める声掛けをしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	管理が出来る利用者には、家族が携帯電話を預けて、連絡が取れるようにしており、毎日のように、息子さんと話している利用者あり。	/	/	/	/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	出来る利用者には促しているが、介助が必要な利用者には出来ない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	自分で管理できる利用者は、居室で好きな時間に連絡が取れるようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に必ずお見せし、自分から電話が出来るよう声掛け、支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	タブレットを活用して、お互いに顔を見ながら会話出来るようにしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	大切さは理解しているが、所持している利用者はいない。	/	/	/	/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	新型コロナウイルス感染防止の関係もあり、外出が出来ていないので、使う機会も無い。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	新型コロナウイルス感染防止の為、外出も出来ない。買い物先の理解を得るところまでは行っていないが、感染状況が落ち着けば検討したい。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	現在、利用者でお金を所持している方はいないが、本人や家族の希望、状況も踏まえて、再度確認しながら検討していきたい。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	必要な物があれば、購入するよう事前に家族に了解を得ており、実際に購入する際も家族に連絡した上で立て替えている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	現在、金銭を預かっている利用者はいないが、管理方法に同意を頂いており、立替金として請求し、了承して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族から相談があれば必ず聞き、事務局等にも確認しながら行っている。	○	/	○	管理者等は、「事業所として、利用者や家族からの要望があれば、できる限り対応できるよう、今後も努力していきたい」と考えている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	お花を植えたり、玄関に壁画を貼り、エレベーターホールには、ウェルカムボードを置いて、親しみやすくしている。	○	△	○	玄関の入口には、きれいで色鮮やかな多くのコスモスの花が活けられており、来訪者の心を和ませてくれる。2階のエレベーターホールにはウェルカムボードが掲示されており、来訪者は一層の親しみ感が持てるような雰囲気づくりをしている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	ホールには、利用者と一緒に作成した物を掲示したり、季節に合った花を飾ったり、新聞や本をすぐ見える場所に置いている。	○	◎	○	共用空間の壁には、利用者と一緒に作成した干支の作品や塗り絵、切り絵などが飾られている。廊下には手すりが設置され、歩行訓練などリハビリに活用している利用者もいる。感染予防対策等のため、職員は事業所内の換気にも気を配り、時間を見て窓を開けている。朝の光は必ずカーテンを開けて取り入れ、利用者の目覚めを助けている。掃除は職員や利用者も一緒に楽しみながら行い、清潔が保たれている。また、屋上では、犬や兔の飼育、プランターで野菜を栽培しており、海の景色の眺めも良く、利用者の癒しの空間としても活用されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	照明を明るくして、定期的な換気を行い、毎日、拭き掃除も行っている。	△	△	△	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	スタッフが持参した花を生けたり、壁画も季節・行事に合わせて演出している。	△	△	△	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	席の配置、ホールにいても自分の好きな事が出来るように工夫はしている。	△	△	△	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	入口から見えるトイレには、中が見えないように、カーテンを付けて目隠しをしている。	△	△	△	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	特に入居時は、大きく生活環境が変わってしまう為、なるべく使い慣れた物や馴染みの物、家族や親戚の存在を感じられるような写真等を部屋に置いたり、飾ってもらうようお願いをしている。	◎	◎	◎	居室には、ベッドや洗面台、クローゼットが備え付けられているほか、利用者の使い慣れたものなどを持ち込むことができる。誕生日やクリスマスのカード、折り紙で作った輪を飾ったり、コロナ禍の感染予防を祈願したアマビエの絵やカレンダーを飾っている居室もあり、自宅の一室で過ごしているような気持ちになれるような雰囲気づくりができています。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	居室入口には、了解を得た上で、お名前を表札のように掲示し、自分の部屋が分かりやすいようにしている。また、共用スペースであるホールには、大きく、日めくりカレンダーを掲示したり、季節感を感じられる掲示物を貼って、季節感と日時を認識できるよう配慮している。	△	△	◎	職員は自立した生活が送れるよう、常に利用者へ気配りを意識した支援をしている。トイレの場所を利用者に分かりやすく表示するほか、職員による見守りやサポート、誘導を行うなど、自分できることをしてもらいながら、少しでも自立した生活に向けて取り組んでいる。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	掲示物等は、なるべく見やすく分かりやすいような内容にしている。	△	△	△	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞紙や、雑誌、絵本、図鑑等をホールのテーブルにさりげなく置き、好きな時に自由に手に取って見られるようにしている。	△	△	△	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	立地上、交通量の多い道路に面しており、以前、外への意識が強い方が落ち着かない際には、1F玄関のオートロックの他に、非常口ドアの施錠をしていた事もあるが、今はその方もたいぶ落ち着いてきた事もあり、施錠をしていない。ユニット入口も施錠せずに対応している。	×	×	○	事業所では、利用者の安全を第一に考え、交通量も多いことから1階の玄関は施錠しており、来訪者にはインターホンで対応している。帰宅願望があり外に出たい利用者には、管理者と相談して職員と一緒に付き添って買い物に出かけたり、屋上へ上がったりするなど、気分転換を図ながら心を落ち着けてもらう対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	状況により、安全確保の観点から、やむを得ず施錠の必要性がある場合には、家族の他、運営推進会議等でも地域の方、市の担当課に説明を行い、理解を求めている。	△	△	△	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	1F玄関のオートロック以外は、日中の施錠をしないよう対応している。帰宅願望等が見られる利用者がおられたら、無理に屋内に留まってもらうのではなく、外出の支援をするようにしている。夜間、自室のカギを閉めて眠る方がおられるが、無理に抑制せず、尊重して対応している。	△	△	△	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	日々の申し送りで、医療連携シートの内容を確認し、現病についてもバイタル記録で確認できる。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	介護記録の記入に加え、注意や観察が必要な場合は、医療連携シートで申し送りし、経過観察をしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護職員が4名おり、ほぼ毎日誰かが勤務し、そのうち2名は医療連携看護師で、24時間相談可能な体制。スタッフから気になることなど相談しやすく、主治医への連絡も迅速に行える。スタッフとの関係も築いて、早期の受診や相談に繋がっており、重度化の防止が図れている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	医療連携シートで受診時の状況が確認でき、必要に応じて、主治医から各専門医への紹介など、家族とも相談しながらスムーズに対応できている。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族や本人の意向を踏まえ、かかりつけ医に相談できるよう、情報収集に努めている。状況によっては、医師と家族の間に入り、医師の説明を分かりやすく伝達したり、予め伺っている家族の意向を医師に報告する等の支援もしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	必要時は、主治医とのカンファレンスに繋げたり、チームで情報共有・相談を実施。家族や本人の意向に沿えるよう支援している。また、本人の状態や感染症発生状況により、通院方法等についての提案も随時行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時には、職員が付き添い、作成した入院時情報提供書を病棟担当看護師へ提出し、情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	こまめに地域連携室等と連絡を取って情報を確認し、早期退院に向けて準備している。退院が近くなれば、退院時カンファレンスに同席して情報収集し、受け入れ態勢を整えている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入院の可能性を考え、契約時から入院できる医療機関を家族に情報提供、提案し、訪問診療時等にも情報提供、指導を受ける事が出来ている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	看護職員が4名配置され、ほぼ毎日誰かが勤務しているので、細かな気づきも、医療連携看護師や訪問看護への相談・報告をタイムリーに実施。主治医にも急変予測・対応方法等の相談ができる。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	医療連携看護師が2名体制で、24時間いつでも気軽に電話相談が出来ており、必要に応じて、主治医への報告・相談を行っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日のバイタルサイン測定、定期的な体重測定、スタッフからの報告・相談、定期的な主治医の訪問診療等により、健康管理が出来ている。また、食事摂取量をバイタル表に記入しており、状況に応じて食事内容や食事形態の変更、補助食品を提供して栄養管理も出来ている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	バイタル表に服薬内容を記載し、薬局からの情報提供もファイリングしていつでも閲覧できるようにしている。開始時・変更時に申し送りで情報共有はしているが、全員が理解するには至っていない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬局の居宅療養管理指導に加え、服薬時の氏名確認もスタッフ2名がWチェックするよう徹底して誤薬防止に努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	特に、向精神薬や睡眠導入剤の服用開始時や変更・増量、減薬時には、状態観察を強化して、スタッフ間で情報共有している。症状の緩和・増強・変化・転倒のリスク等を主治医へ報告・調整依頼も出来ている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	下剤や血圧降下剤を服用している方など、バイタル異常時には看護師へ相談し、必要時は主治医に連絡・相談して調整している。				

愛媛県グループホームユニットいよ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居契約の際、医療連携看護師から、重度化した場合における(看取り)指針を説明、終末期における支援方法についても説明し、状態に変化があれば家族や主治医を交えてカンファレンスし確認している。	/	/	/	事業所では、訪問調査日の数週間前に看取り支援を経験してる。事業所には、「重度化した場合における(看取り)指針」があり、入居時に職員から利用者や家族に説明している。状態の変化があった場合には、家族と医師を交えて話し合い、方針を共有して支援している。看取り支援時には、主治医の診察のもと、利用者の苦痛の緩和や水分制限による痰の抑制など、利用者にとって安心した日々が送れるような支援をしている。家族や職員、医療関係者との連携が素晴らしく、身体的・精神的ケアをしながらスムーズに看取ることができ、家族から感謝の言葉をいただいている。今後も、事業所として利用者や家族の希望があれば、看取りを受け入れていく予定である。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	本人・家族に事業所として説明するだけでなく、状態変化があった場合や主治医または家族から希望があった場合にもカンファレンスを行い、医師からの状態説明、家族の意向確認等を含め、チームでの相談が出来る。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	状態変化について情報共有し、専門職である看護師への相談や主治医からの病状説明を確認した上で判断する。職員から不安や心配の声があれば、その思いを聞き、対策を検討している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居時・入院時・終末期において、重度化した場合の指針と一緒に、できること・できないことについても説明し、了解を頂くようにしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	本人・家族の想いに寄り添い、主治医に伝え、相談できる体制を構築している。今後予測される状態を共有することで安心してケアする事が出来ている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の想いや葛藤について、日頃から聞き取りし、寄り添い、信頼関係を築けるよう努力している。終末期には、本人と家族が向き合える時間を大切に出来るよう、出来る限りのサポートをさせて頂いている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	新型コロナウイルス感染症も含め、研修・実習を実施。嘔吐時や発熱等の症状出現時の居室対応などが実践できるようにし、予防への意識を高めている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症発生時の対応マニュアルを作成し、手順もポスターにして掲示。必要物品の確認や準備等、研修・実習が出来た。今後も定期的に行う。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	県内での新型コロナウイルス感染が発生する度に、外部からの立ち入り及び面会の制限等を迅速に調整・対応し、家族への理解を求めている。職員にもその都度注意を呼びかけ、感染リスクを減らせるよう個々の危機意識が高まるよう呼び掛けている。また、感染したり、濃厚接触者になった場合、接触した場合の対応等、職員の家族との接触に至るまで、速やかに周知・徹底している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	感染の流行状況について、法人全体での会議で共有、管理者や看護師より職員へ情報発信し、予防を呼びかけている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時に、上着を階下で脱衣し、体調確認表への記入、検温・手洗いうがいの励行、アルコール消毒液の設置を徹底。携帯アルコールを配布。面会者にも体調確認表に記載依頼し、面会も飛散防止シートを挟んで行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	生活動作を共にし、同じイベントを同じ目線で過ごすなど、日々の関りの中で、信頼関係を築いている。	/	/	/	家族の来訪時には、利用者と一緒におやつを食べたり、散歩や外出をしたりするなど、くつろげるよう支援しているほか、職員から声をかけ、意見や要望を聞くようにしている。夏の花火大会には、屋上を家族に開放して見物し、楽しい時間を過ごすよう支援している。現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため、外出の自粛や面会の制限が設けられていることもあり、遠方などの家族とタブレットを活用してオンライン面会ができるよう対応したり、電話連絡も取れるようにしている。近くに住んでいる家族からは、事業所への差し入れなどが頻りに届けられている。毎月家族には、事業所便りを送付しており、利用者の写真のほか、事業所での出来事や写真入りで職員の人事異動を掲載するなど、家族との会話にも力を注いでいる。また、外出は自粛しているが、屋上を活用して犬やうさぎと触れ合う時などに、利用者の活き活きとした表情が見られるため、今後、家族に屋上で撮影した利用者の写真を送付することを計画している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	本人の様子をたびたび伝え、コミュニケーションを大切にしている。また、コロナ禍においても、感染に注意しながら本人との距離を解消できるよう、タブレットや電話、飛散防止シートを用いた面会を実施している。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	新型コロナウイルス感染防止の為、自粛している。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月、全家族にホーム内の様子を写した写真を載せて「いよ便り」を発送している。また、タブレットを使い始めてから、LINEを利用できる家族とはLINEで画像を送ったり、逆にひ孫さんの写真を送ってもらったり、交流を図っている。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	情報を共有し、相談報告を密に行っている。報告だけでなく、家族の希望もお聞きするようにしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	家族の事を忘れてたり、変化している時は、家族の気持ちに寄り添い支援している。また、「家族に会いたい」と強く訴えあれば、近くであれば家族宅まで出かけて、会話の機会を持ち、利用者に安心して頂けるよう支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	毎月送付している「いよ便り」にて報告、電話や面会時にも必要な事をお伝えし、協力いただいている。	○	/	◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	現在のところ、家族会はできていないが、利用者や家族の意向も聞きながら検討したい。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりへ起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	アセスメント情報をもとに、入居時の契約でリスクを説明し、入居後においても、状態によって起こり得るリスクを説明し、納得頂いている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には、スタッフから様子を伝え、家族には気になる事や希望・想いをお聞きしている。また、タブレットの導入により、さらに気軽にコミュニケーションがとれるようになった。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時は、なるべく2名体制で説明を行い、家族が理解しやすいよう説明を心がけている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居になる場合の条件について詳細に説明している。本人希望時もそうだが、事業所側の判断で退居になる場合についても、その条件を詳細に説明している。また、必要時は居宅介護支援事業所や地域包括支援センターにも相談しながら対応する体制がある。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	介護報酬の改正時や消費税の増税、物価変動に伴う料金変更時など、料金変更する際は、必ず文書で説明し、同意署名を頂くようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	開設当時から続けている運営推進会議において、事あるごとに説明し、理解を求め、協力を依頼している。	/	○	/	法人・事業所として、町内会に入会している。今後、管理者等は回覧板を活用した地域との関わり方などについて検討し、より地域に密着した事業所を目指して役立てていくことを考えている。現在のコロナ禍では、ボランティアの受け入れ中止など地域との交流や関わり方は難しいが、終息後には従来どおりのかかわりを予定している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	今年度は、新型コロナウイルス感染防止の為、外部との関りが持てないが、昨年度までは近隣の方のご挨拶に始まり、夏祭りの参加、秋祭りへの招待、運動会での幼児園との交流の他、県の委託事業にも積極的に参加し、地域との触れ合いを大切にしていた。	/	△	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	地域の方やボランティアの受け入れを積極的に行ってきたので、そこからコミュニティが広がっている。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	普段はあまり無いが、運営推進会議や行事の際には気軽に立ち寄れるよう、お知らせや案内を配布している。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	近所で会ったり、避難訓練や運営推進会議でお会いする度に声を掛け合い、良好な関係を続けている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	例年なら、地域のボランティアも複数来られたり、地元の中学生や高校生がボランティアに来てくれ、利用者との交流が持てている。昨年は、松山市の中学生も体験に訪れ、お互いに貴重な触れ合いと体験が出来た。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	様々な地域資源を活用できるよう、把握に努めている。昨年は、近くにある健康センターでのCAFEに参加してみんなでカレーを食べて帰る事もあった。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	伊予地区グループホーム協議会の定例会への参加、行事ごとに色々な店舗で案内の掲示、秋祭りでは地元業者にうどんやおにぎり等の注文や調理器具のレンタル、地元の理容店の出張理容、消防署員を招いての避難訓練や救急救命講習等、様々な方々と触れ合い、協力を頂いている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	今年度は、新型コロナウイルス感染予防の為、会議は開いていないが、行政に確認の上、これまで同様に2ヶ月に1回は、地域の方や行政に運営状況をお便りでお知らせしている。	x	/	△	運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、市担当者等の参加を得て開催している。会議の開催時には、すべての家族に案内を出し、家族アンケート結果からも、運営推進会議の開催に理解が得られていることが分かる。会議では、事業所内の行事や利用者の様子を報告するほか、外部評価のサービスの評価結果などを報告している。また、会議に合わせて避難訓練を実施したり、チャアー・ヨガなどを取り入れたりするなどの内容の工夫をしている。会議を積み重ね、地域との関係が深まり、利用者のサービス向上につながっている。会議などを通して、地域での事業所の評判が広まり、入居希望の相談につながったケースもある。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	過去の外部評価後にも、結果をご報告し、ご意見を頂いている。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	コロナ禍においても、運営状況のお知らせとともに、地域の方からの質問や意見、感想を受け付けており、その都度改善し、その結果についても次回報告する形をとっている。	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	前年度は、来所頂いているボランティアの方、避難訓練時には消防署員、また、市議会議員さんにも参加頂いた。雰囲気を変えて、地元商店街内の古民家を利用して開催した際は、法人内のGHと合同で交流を持った。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	コロナ禍になり、より詳細に事業所内の雰囲気や伝わるよう運営状況を記載して、各委員に情報提供している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	「悔いの残らないようお世話させていただきます」という法人の理念のもと、職員全員の投票で決まった、事業所でのケア理念「和かい言葉、温かい雰囲気、安心できる居場所」を利用者の生活に取り入れ、実践・継続できるように、申し送りでも唱和している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	面会スペースとなる2Fホールや1Fホールに法人・事業所両方の理念を目に入りやすい場所に掲示し、その都度説明を行っている。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	職員一人一人の専門性の向上、スキルアップが利用者への穏やかな支援に繋がる事から、外部からの研修招致、各職員が研修参加できるよう予算も計上している。	/	/	/	代表者は、年2回職員との面談を実施し、職員の意見を傾聴して働きやすい職場づくりに努めている。法人・事業所として、職員には内部研修を実施するほか、外部研修等に参加することができ、法人として参加費用も助成している。また、代表者は事業所にもよく顔を出し、職員や利用者への声をかけも優しく、管理者や職員からも相談することができている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	入社時には、法人管理職から、新人研修プログラムとして、介護職に求められる事や、法人としての倫理観等を伝えたり、外部から、各テーマに沿った専門講師を招いて職場で勤務時間内に受講できるよう配慮している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	職場環境は、利用者も職員も安心できるような整備を心がけ、職員一人一人の自己評価・管理者評価をもとに、条件に反映。事業所が算定できる最大の(特定)処遇改善加算を算定し、職員へ還元できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	伊予地区グループホーム協議会、グループホーム間の相互研修、認知症介護実践者研修、管理者研修、リーダー研修等も費用を会社で負担し、同業者との交流を推奨している。また、市町が主催する連絡会や研修活動では、介護労働安定センターと密に連携を図っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	ストレス軽減のための研修開催やアンガーマネジメントの実践等、積極的に行っている。	◎	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	定期的に委員会を開いたり、内部・外部研修を行う事でどんな行為が虐待や不適切なケアにあたるか学んだり、客観的に自身のケアを振り返りスタッフ全員で考える機会を大切に継続して虐待防止に取り組んでいる。研修ごとに報告書を提出し、全員が読み返せるようにしている。	/	/	/	職員同士の関係性は良好で、できていないことをカバーし合うことができ、些細なことでも改善すべきことは話し合い、より良いサービス提供につなげている。虐待防止などをテーマに取り上げて、定期的に内部研修を実施しており、出席できない職員のために研修内容をまとめた資料を作成し、職員間での確認や理解できるように努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	その日にあった特別な事は、記録に残し、申し送りで伝える事で、スタッフ全員が共有できるようにしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	朝の申し送り等で理念や目標を確認・唱和し、常に意識できるようにしている。また、ケアもスタッフ同士で声を掛け合ったり、申し送りやカンファレンスでも話し合っている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	スタッフが困窮だと感じている事があれば、スタッフ同士で相談しあったり、ケアを交代したりできる関係である。リーダーや管理者にも気軽に相談できる。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	各事業所に、自社で整備した「身体拘束等の適正化のための指針」を保管しつつでも確認できるようにしている。身体拘束の事例があれば、定期的に確認し、必要性について検討している。内部・外部研修も行い、資料を共有。新人スタッフにも引き続き伝えていく。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	現在、ベッドからの転落防止の為、ベッド柵をベルトで固定している方がいるが、毎月、積極的に拘束廃止に向けての話し合いをしており、スタッフ全員が身体拘束にあたる事を理解している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束を希望する家族はいないが、毎月の話し合いや家族への報告も行って、拘束廃止に向けて取り組んでいる。仮に今後、要望される家族がおられても、原則禁止についてしっかりと説明を行う。	/	/	/	

愛媛県グループホームユニットいよ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	管理者等は理解しているが、他の職員は理解出来ていない人もいる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	現在は無いが、もし必要性のある方の場合、情報提供を行っていく。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要性のある方がおられたり、本人や家族から相談・依頼等があれば、社会福祉協議会等へ連絡を行う。法人内のグループホームでは、日常生活自立支援事業を利用されている方もおられる。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	急変時のマニュアルを作成し、スタッフに周知し、閲覧できるようにしている。新しいスタッフが多く、周知できていない部分も多く、看護職員に頼る場面も多い。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	マニュアルはいつでも閲覧できるようにしているが、定期的な訓練はなかなか出来ない。昨年度は、消防署指導のもと、普通救命講習を受講している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットの事例を申し送りファイルに綴じて、職員間で注意を促している。事故発生後は、早急に現場検証とカンファレンスを開催し、原因の究明と対策を徹底している。事故報告書は法人にも提出して共有、管理職からも指導をもらい、今後の対応に反映させている。家族には真摯な説明と謝罪を伝え、改善に向けた動きを心がけている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	毎月、安全委員会を開き、1ヶ月間のヒヤリハット・アクシデントを振り返り、その後の改善が出来ているかどうか、評価している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	家族への対応等、常に支援について振り返り、マニュアルを見返して、対応方法を検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情発生時には、ただちに管理者・代表者に報告の上、対応を協議。手順に沿って対応し、必要があれば市にも報告出来ている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情や不満、要望が無いが、定期的に家族に確認している。また、無記名で投函できるよう苦情を受け付ける箱を入口に設置し、苦情があればすぐに検討できるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	挨拶を始めとして、利用者との会話を大切にしている。利用者が気軽にスタッフに想いを伝える事ができるように、声のかけ方、雰囲気、目線等に気を配っている。			◎	日々の生活の中で、職員は利用者からの貴重な意見や要望を傾聴するほか、話すことができない利用者からは表情等から汲み取るよう努めている。家族からの意見にも、継続して耳を傾け、職員はコミュニケーションが取れる場面づくりなどを工夫し、面会や電話連絡の機会を逃すことなく意見を聞くよう気配りをしている。また、職員からは、管理者が申し送りなどを活用して、積極的に意見が出せるよう留意している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	家族とのコミュニケーションが図れるよう、面会やお便り、電話で情報を伝え、要望等お聞きする機会を大事にしている。	○		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族から相談があった場合には、必要な窓口をお伝えするなど、情報共有を図っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	代表者は、月に1回、管理者会で事業所の様子を把握する他、事業所に顔を出して、設備等の確認も行っている。また、必要に応じて、職員個人との面談を行っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	朝・夕の申し送り、それぞれの意見を把握し、支援方法について伝達。常に、法人理念と事業所のケア目標を意識し、利用者本位のケアを目指している。			◎	

愛媛県グループホームユニットいよ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	各職員が、年に2回、自己評価を作成・振り返りを行い、上司が評価とコメントを記載している。自己評価をもとに、管理者が個別に面談を行い、サービスの向上、個々のスキルアップに繋げている。				職員全員で、外部評価の自己評価に取り組んでいる。運営推進会議の中で、サービスの評価結果や目標達成計画の取組み状況などを報告している。運営推進会議に参加していない家族もいるため、管理者等は家族アンケートの質問項目にもある「サービス評価の結果や今後の取り組みについて知っていますか」という設問の意味についても事業所として考え、家族にきちんとした丁寧な説明を予定としている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	自己評価の項目を職員が協力して作成。評価を通して必要な事を再確認。課題も明確になり、学習の機会になっている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	事業所全体で取り組んでいる。新人職員も含めて、評価を伝え、次の計画作成に活かせるようにする。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	コロナ禍においては、毎月のお便り・運営推進会議で、評価結果や目標達成計画を紙面で報告する。	x	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	運営推進会議で随時報告している。朝の申し送りでも確認するようにしている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	色々な想定で、訓練を行っている。災害はいつ発生するか分からないので、備品も常に保管している。				年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。訓練は運営推進会議と合わせて実施していることもあり、定期的に地域住民等の参加協力を得ることができている。管理者等は、地域とより盤石な協力体制を深め、連携した災害への備えの充実を目標としている。今後は、事業所の防災計画や災害時の対応についても、家族に知らせることを予定している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年に2回以上、日中と夜間での想定で訓練をしている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	スタッフ全員に、置いてある場所を周知している。点検や賞味期限のチェックも行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	非常ベルを押すと、近所の方にも自動的に連絡が届くように設定している。訓練にも参加して頂いている。	x	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	消防署の訓練にも参加し、地域の自治会等の訓練にも参加した。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	家族以外への情報発信は、なかなか出来ていない。運営推進会議のメンバーには、取り組みについて、情報提供をしている。				法人・事業所として、町内会に加入していることもあり、管理者等は、「今後回覧板を活用して、地域住民に高齢者等の相談支援に応じれることを知らせていきたい」と考えている。日頃から、市介護保険課や長寿介護課、地域包括支援センターとは、問い合わせや連絡をするなどの連携が取れている。幼児園児との交流や中学生の職場体験、様々なボランティアを受け入れるなど、地域の関係機関や団体との交流を重ねている。現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため、ボランティア等の受入れは中止している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	相談の窓口を設置している。個々のニーズに合った支援を行っている。		x	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	例年は、秋祭りをし、地域の方との交流を行っていたが、今年度は、新型コロナウイルス感染防止の為、行事が出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	前年度、松山市の中学校から、5名が体験に来られ、車椅子に乗って、移動介助の実習や感想を話し合った。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	今年度は、新型コロナウイルス感染防止の為、行事や運営推進会議も顔を合わせての実施は出来ていない。今後、状況が変われば、家族も参加しやすい土日祝等に開催できればと考えている。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 11 月 6 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 10名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3871000281
事業所名	グループホーム ユニットいよ
(ユニット名)	B棟
記入者(管理者)	
氏名	西岡 祥太
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 18 日

<p>【事業所理念】</p> <p>和らかい言葉、温かい雰囲気、安心できる居場所</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>目標① オートロックについて、来訪する地域の方やキーパーソン以外の家族への理解が得られるよう、屋上への散歩や外出なども行うことを説明し理解を得る。→運営推進会議では、出席者に説明行い、理解を求めた。普段、来訪しない家族へ手紙や電話、いよ便りで安全確保の為、施設の構造上ロックしている事を説明し、理解を求めた。</p> <p>目標② 運営推進会議に、家族が参加しやすいよう働きかけを行う。→コロナ禍となり、なかなか難しいところがあるが、家族へ情報提供をしながら、開催の曜日を土日祝にするなど、工夫していく。秋祭りでは、参加を呼びかけて多数の家族が来所し、利用者と親子で触れ合う時間が持った。</p> <p>目標③課題や計画に沿ったモニタリングが行えるようになる。→他事業所の様式を取り入れ、計画内容を確認しながらモニタリングを記載し、閲覧もしやすいようにした。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>連携医療機関が隣接しており、緊急時の対応や看取り支援にも対応することが可能なこともあり、利用者は安心して生活を送ることができている。職員は理念をいつも念頭に置き、利用者一人ひとりを大切にしながら、利用者の視点に立ったアセスメントを行い、日々のケアに取り組んでいる。代表者や管理者は、職員との面談を取り入れ意見を反映するなど職員が働きやすい職場づくりに努めていることもあり、職員は明るく働きやすい職場であると感じることができている。職員は、優しいさりげない言葉かけをしながら、利用者の穏やかで楽しい生活を支援している。誠実な人柄の管理者は、利用者に対する職員の素晴らしい対応を見逃すことなく褒め、職員の育成やスキルアップにつなげていくほか、職員一人ひとりの長所や特技を活かしながら、その力を発揮できるよう導くことにより、職員の働く意欲の向上に繋がっている。また、管理者と職員は、同じ目標に向かって団結・協力し合い、生き生きと日々の業務に取り組むことができ、利用者の笑顔からも窺うことができる。</p>
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	本人・家族の声をしっかりと聞き、希望や意向を把握できるようにしている。また、面会時でも家族に様子を伝えている。	○		◎	職員は、日々利用者とコミュニケーションを図る中で、思いや意向を聞き取っている。言葉を話せない利用者には、家族からも生活習慣を聞きつつ、職員は利用者本人が「今一番必要としていることは何か」を表情から汲み取り、話し合いながら把握できるよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	家族から、若い頃・元氣な頃の生活歴を聞いて、情報を把握している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入居時や面会時など、家族とのコミュニケーションを大切にしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	これまでの生活歴や、お聞きしたり、会話の中から発見した事をアセスメントにまとめている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の言葉だけでなく、動きや様子、表情にも注意し、隠れたニーズに気づけるよう注意している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居前の面談から、本人・家族・ケアマネ等に生活歴や趣味嗜好をお聞きしている。お聞きしたことをアセスメントにまとめて、各スタッフに確認してもらっている。入居後も、本人や家族から関わりの中で、お聞きしている。			◎	自宅から事業所へ直接入居する場合は、利用者本人はもとより、家族からもこれまでの生活状況などを詳しく聞いている。病院から直接入居となる場合には、病院の地域連携室等の職員から利用者の生活状況や入院までの経緯などを聞くほか、サマリーなどの提供を受けて情報を把握している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	普段の関りを通して、出来る事、出来る事を見極め、本人や家族の意向も踏まえて、生活に取り入れ、希望者には生活リハビリの提案も行っている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	本人との会話や、他者との関わりに対する反応等から気持ちが変わる場合の理由やタイミングを把握し、支援に反映できるようにしている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	本人の様子について、常に原因を探り、スタッフ間での情報交換もしながら、症状だけでなく、原因を解決できるように掛けている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	利用者それぞれ、生活リズムに違いも見られるため、可能な範囲で、それぞれのリズムを尊重し、他者に合わせるどころメリハリをつけられるよう注意している。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	アセスメントだけでなく、日々の関りの中から出てくる新しい発見も、申し送りやケアカンファレンス時にスタッフ間で共有して暮らしの中に取り入れる事を考えている。			○	管理者を含む職員全員は、常に利用者の立場でケアを進めていくことを基本としている。利用者や家族等の意見を反映し、カンファレンスなどを活用して職員間で話し合いをしている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	本人・家族に意向を確認しながら、時にはスタッフからも提案を行って、本人らしさを感じられるよう配慮している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	普段の生活の様子を元に、本人や家族の希望を踏まえたアセスメントを行い、他職種でのカンファレンスで課題を確認している。				

愛媛県グループホームユニットいよ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	心身の状態に関係なく、その人らしさを少しでも見出せるように検討している。				日頃から、一番利用者の近くで接している職員は、利用者の現在の様子を理解し、介護計画の中に必要なサービスを組み込むことができている。家族の面会時には、職員は「利用者がより良く暮らせしていくためには、どうしたらよいか」を尋ね、出された意見を反映している。また、介護計画の作成時には、利用者や家族、職員などのそれぞれの意見をまとめ、工夫やアイデアを取り入れることができている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人・家族の想い、普段の生活の様子やADL向上へ向けた提案、好きな事や興味のある事、様々な事に目を向けながら優先順位も検討して、プラン作成をしている。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	たとえ寝たきりになったり、終末期に入っても、その人が望む生活や、家族との関わり・時間・繋がりを大切にもらえるようなプランでサポートする事を心がけている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の人たちとの協力体制は、なかなかいつも実現は出来ないが、例年は、運営推進会議や、秋祭り、運動会等において、交流する機会は作れている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	利用者個人の日々の記録にケアプランも記載し、確認できるようにしている。ケアカンファレンス時に再確認しながら共有している。			○	介護計画の内容は、日々の支援の記録をする際にも、職員は確認できるようにしている。ケアカンファレンス時にも、職員間で介護計画の共有を図るとともに、定期的にモニタリングを行い、今後の支援内容に反映できるよう努めている。また、誰が読んでも分かりやすい記録になるように職員は、「とても機嫌が良かった」「ゆっくり食べることができた」など、利用者のありのままの様子を記録に残すようにしている。職員の気づきや工夫、アイデアなどは個別のファイルに記録し、職員間で共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	定期的なケアカンファレンス時に実施状況を話し合い、確認をし、今後の計画・支援内容に繋げている。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	本人の言葉や行動をありのままに、毎日経過記録に記載。記録には個人差がある。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	モニタリング表に担当者が気づいた事を、3ヶ月毎に記録しているが、工夫やアイデアは少ない。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	半年毎に、アセスメント更新し、日勤スタッフがカンファレンスに参加し、プランを見直している。当日参加できないスタッフにも会議録やメモ書き等で、気づきや変更点を伝えている。			◎	介護計画は、6か月に1回見直しをしている。計画のサービス内容が頻繁に変わることもあるが、職員は利用者の現状確認をきちんと行うことができている。また、利用者が入院した場合は、退院後に新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	担当者他が、モニタリングを行い、現状確認をしている。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院他、状態の変化が生じた場合は、家族に報告しながら新たな計画を作成している。出来上がった計画は、ご家族に確認頂き、署名頂いている。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月1回、スタッフ会議を開き、問題を検討・解決している。緊急案件に関しては、朝のミーティングで話し合っている。			◎	緊急性のある場合は、その日の出勤職員で話し合い、管理者等に確認のうえで即座に行動に移している。他の職員から意見を聞いたうえで、支援を検討する場合もある。話し合った内容は会議録に残し、職員は出勤時に必ず目を通すようにしている。また、職員はいつでも会議録を確認することができる。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	テーブルを囲み、午後の落ち着いた時間に会議を開いている。1人1回は発言する機会を作っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	新型コロナウイルス感染防止の関係もあり、日勤スタッフのみで会議をしている。グループホーム外では開催できず。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	参加できないスタッフには、あらかじめ意見・質問を聞いておき、会議で検討。会議での決定事項をまとめ、ファイル保管。スタッフがいつでも閲覧できるようにしている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	生活面は(ケア)シートファイル、医療面は医療連携シートファイル内に各利用者のシートがあり、生活面・医療面ともに情報を共有・周知できるようにしている。			◎	各シートファイル内に、利用者ごとのシートがあり、職員間で情報共有できる仕組みづくりができている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	毎朝、始業時に日勤者全員が事務所又は事務所横に集合し、当日のリーダーが申し送り事項を読み上げる等、重要な情報も伝達・確認している。午後からの出勤者にもリーダーが必要事項を伝えている。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	希望が言える利用者については、できるだけ叶える努力をするが、認知症の為に、希望を言えない利用者も多く、不十分な点があると思われる。	/	/	/	日々の生活の中で、職員は利用者の思いや意向を聞き、できる限り支援している。認知症や重度化した利用者からは、思いや希望を把握することができないことも多くなってきている。利用者の入浴後等には、着替えやおやつ、飲み物などを利用者を選んでもらうことができている。職員は、利用者の残存能力を活かすことを意識しながら、利用者を褒めることや感謝の気持ちを伝えることをいつも心がけた支援をしている。洋裁が趣味や手伝うことが好きな利用者もいるため、職員は利用者一人ひとりの良いところを見つけながら、膨らませていけるような言葉がけをしている。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	可能な範囲で、自己決定する機会や場をつくっているが、自己決定できない利用者も4～5名おられる。	/	/	○		
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人の希望を聞き、洗濯物たみやお膳拭き、自室の清掃等をしていただき、力を発揮できるようにしているが、希望を伝えられない利用者も多い。	/	/	/		
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人の希望やペースを尊重している。全介助の利用者も多く、希望を聞くのが難しい事も多いが、できるだけゆったりした時間を大切にしている。特に、食事では、本人の希望を踏まえた介助を心がけている。	/	/	/		
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	コミュニケーションを大切に、笑顔が多くみられるような雰囲気作りをしている。会話の中に、昔懐かしい話題を織り交ぜたり、傾聴し感謝の気持ちを大切にしている。	/	/	/		○
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	表情や声からいつもと変わらない事を観察し、温かい雰囲気の中で穏やかに過ごせるよう気配りをしている。声を掛けられた際の反応や表情から意向を読み取る事も心がけている。	/	/	/		/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊敬」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	職員は理念に沿って行動し、常に利用者様を大切に思うことを心がけている。また、新人職員は新卒・中途に関わらず、法人として職員研修プログラムにより、相手を尊重して支援する事を学ぶ機会を作っている。	◎	○	○	職員は、事業所の理念を常に意識しながら、利用者一人ひとりを尊重し、丸く和らかい言葉かけを心がけている。居室の入室時にはノックをして話しかけるほか、退室時に職員は、「失礼しました」「ありがとうございました」と伝えている。居室に利用者がいない場合にも、職員は利用者に入室する確認を取り、退室後もきちんと声かけをしている。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	特に入浴介助、排泄介助では、常に周囲にも気を配り、声の大きさにも気を付けている。	/	/	/		○
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴介助や排泄介助時、バスタオルや腰掛けをうまく使っている。車いす対応の場合、入口のカーテンを開けて、プライバシーに配慮している。	/	/	/		/
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	訪室時は、必ずノック後、本人の了解を得て入室するようにしている。(訪室が分からない利用者に対してもノックと声掛けは行っている)	/	/	/		◎
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入社時に、仮に退職した後も個人情報を遵守するよう、誓約書を交わし、新人職員への職員研修プログラムでも個人情報を漏洩しないよう、具体例を挙げて予防に取り組んでいる。	/	/	/		/
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者に洗濯物たみやお膳拭き、その他の軽作業をしていただいたり、昔の話や風習を話してもらったりする事で年長者ならではの考えを覚えていただいている。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりの思いを考慮し、できる限り良好な人間関係が築けるよう支援している。利用者同士の関係性がこじれ、空気が重くなった場合には、ムードメーカー的な利用者が「そんなこと言われん」となだめて仲裁する場面も見られ、職員が肩をなでおろすこともある。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	毎日顔を合わせる利用者同士の繋がりを大切に考えている。また、同年代だから分りあえる事があることに注目し、スムーズな掛け合いができるようサポートしている。	/	/	/		
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	職員は必ず一人ひとりに声を掛け、利用者同士も人間関係がうまくいくように支援している。ちょっとしたズレで口論やトラブルに発展しないように、職員が間に入って取り持ったり、場合によっては、その都度、席の配置を変更する事もある。全体のバランスも考慮して対応している。	/	/	/		○
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	それぞれの想いを大切にして、必要な場合、互いに納得がいくようにサポートに入っている。	/	/	/		/

愛媛県グループホームユニットいよ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	キーパーソン、家族構成、生活歴、趣味や嗜好を把握したり、以前からの人間関係を大切にしている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族の話も聞きながら、情報を集め、把握して利用者との会話や関係作りを活かせるよう努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	現在は、コロナ禍のために、ボランティア等も中止している。外出の機会も少ない。利用者によって、周辺症状が強く影響し、精神的に不安定になるリスクが高い場合は、家族の顔を見に、外出支援する事もある。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	現在は、感染予防の為に面会を予約制にし、10分程度としている。通常は、キーパーソンの意向を踏まえた上で、対応している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	新型コロナウイルス感染防止の為、多くの利用者が外出するのは非常に難しいが、天気の良い日には、屋上に日光浴に行けるように心掛けている。感染症対策開始前までは、季節を感じて頂けるよう、ドライブにも誘っている。	×	×	△	日頃から、事業所近くにある五色姫海浜公園まで散歩したり、市内の旧双海町などにドライブして出かけられるよう支援している。季節に応じた外出をすることも多く、桜の咲く時期には、市内になる称名寺に花見に出かけることもある。現在は新型コロナウイルス感染症対策のため、利用者の外出は自粛しているが、職員は利用者と一緒に建物の屋上にエレベーターで上り、海の景色を眺めたり、飼っている犬やうさぎとたわむれたり、プランターで育てている野菜の成長を見守ったりするなど、利用者の楽しみにもなっている。また、屋上にはエレベーターを利用して段差なく行くことができ、車いすを使用している重度の利用者も外気に触れ、気分転換ができている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	新型コロナウイルス感染防止の為、地域の人たちとの外出が出来ていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	重度の利用者も多く、なかなか困難だが、天気の良い日には屋上へ日光浴に行くように心掛けている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	新型コロナウイルス感染防止の為、遠くに外出することが出来ない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	朝のミーティングや内部・外部研修を通して、認知症の理解を深め、良い点・改善点を共有する意識を持つようにしている。また、認知症介護実践者研修にも積極的に参加し、職場実習を通して、チームで考え、対応するようにしている。				利用者は、レクリエーションで貼り絵をしたり、コスモスを生花にして飾ったり、食後にお盆を拭いてもらうなど、利用者に応じた役割や場面を作っている。紙芝居や新聞、借りてきた本が自由に読めるようにするなど、職員はアイデアを取り入れて工夫した生活環境づくりをしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	内部・外部研修等で、認知機能や身体状況の機能について、理解を深めている。利用者の日常生活環境や状態を把握出来るように努めている。心身の機能や症状から認知症の周辺症状に繋がっていないか等、認知症との関連性についても観察する意識を持って、対応している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	重度の利用者が負い為、なかなか難しいが、出来そうな利用者には、洗濯物たたみやお盆拭き等、軽作業を勧め、ホーム内でのそれぞれの役割を感じてもらえるよう配慮している。	○		△	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	アセスメント情報をもとに、個々の生活歴を把握し、本人らしく楽しんだり活躍できるように努めている。				職員は、利用者の楽しみごとや役割、出番が何かを考え、一人ひとりの状態やレベル、生活歴に沿った活躍のできる場などを設けている。レクリエーション時のテンポリーダー役を、利用者をお願いすることもある。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	認知症の種類や症状、障害のレベルを把握し、日常生活の中でその力を活かせるように支援している。また、コミュニケーションをとりながら、発語を促し、穏やかに過ごしてもらっている。	○	○	△	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	新型コロナウイルス感染防止の為、外出する事が難しく出来ていない。				

愛媛県グループホームユニットいよ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自己決定できる利用者は、好きな洋服を着て頂いている。また、契約までに、家族から好みの服などがなか、伺っている。				職員は、食後に利用者の食べこぼしをさりげなく拾ったり、口の周りをきれいに拭きとったりするなど、フォローをしている。重度の利用者にも毎朝更衣をしてもらい、一日の始まりが分かるようにしている。髪などの整容を整えたり、2か月に1回訪問理容で散髪をしたりすることも支援している。また、職員は洋服の汚れにも気を配り、必要に応じて着替えの介助をしている。また、足の痛みを訴え、くつがサイズが合わなくなった場合には、介護用などのくつを家族に購入をお願いしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人・家族と相談して支援している。必要な物があれば家族へ依頼して持ってきていただいている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員が利用者の意思を尊重し、相談・配慮している。家族にも相談して支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	新型コロナウイルス感染防止の為、外出や行事等は行えていないが、季節に合わせた服装を用意している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなく、裾を直したり、食事の際に衣類が汚れる場合にはエプロンではなく、タオルを胸に掛けて食事して頂いている。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人・家族に確認した上で、大半は地元の理髪店に出張理容を安価で依頼し、元々なじみの理美容店がある方は希望により、通われる方もいる。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	生活歴や家族からの情報により、本人が好むであろう物を職員で考えたり、家族と相談して支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食べる事だけではなく、見た目なども工夫し、食欲を満たす事に加えて、食べる楽しさを感じてもらおうよう、意識している。				献立の作成と食材の配達には業者に委託している。調理専属の職員が1名おり、他の職員は当番制で調理の補助しながら調理をしている。後片づけの手伝いができる利用者は、できる範囲で手伝ってもらっている。利用者の苦手な食材を変更したり、季節感のある食材やおやつをメニューに組み込んだりしている。食器は、軽くて扱いやすい材質のものを使用している。職員は利用者の食事介助を優先し、利用者の食事が終わった後に、同じ食卓を使用して利用者の様子を注意深く見守りながら各自で食事を摂っている。現在は、調理場の広さを考慮し、Bユニットですべての調理などの作業を行っている。今後は、米を炊くなどの一部調理をAユニットで行うなど、同ユニット利用者にも調理時の匂いが伝わるような工夫を期待したい。また、外注業者との話し合いや栄養士等にアドバイスをもらう機会を設けることも期待したい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者ともに行っている。	△	外部業者へ発注のため、あまり行っていないが、お膳拭きの協力を依頼するなど、出来る範囲で手伝って頂いている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	新型コロナウイルス感染防止の関係もあり、現在は行っていないが、利用者の希望も聞きながら、配慮したいと考えている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	苦手な物、アレルギーの有無などを把握して対応している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	外部業者へ発注、献立を利用しているが、行事食では、利用者の好きな物を提供している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりや器の工夫等)	○	食欲が増すように、見た目を大切に、食べやすいように盛り付けなど工夫、食器も使いやすく安全なもので提供し、最後まで食べる楽しさを大切にしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	利用者の状態に合わせた物を提供している。状態により、安全な物に変更する事もあるが、入居時は、使い慣れた箸と茶碗の持参をお願いしている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	食事介助の必要な人がいるので職員と一緒に食べるのは難しいが、一人一人の状態を把握し、テーブル上にティッシュを置いて、いつでも使えるようにしたり、食べこぼしがあっても、エプロンではなく、個人のタオルを前掛けとして使っている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	本人の状態に合わせた食事を提供し、無理のない範囲で皆と一緒に食べられるよう配慮している。		◎	△	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者一人ひとりに合わせた食事量・水分摂取量を確保できるよう支援している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	主治医や看護師と相談しながら、栄養セットや補助食品などタイミングを見ながら提供している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	外部業者のメニューを利用している。現在は、コロナ禍で中断しているが、通常時は定期的に外部業者を招いて献立や調理方法、具材について意見交換や要望を出し合い、当社の栄養士資格を持つスタッフを中心に話し合っている。			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	感染防止委員のアドバイスを受けながら、調理担当のスタッフが責任をもって対応している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	食事後には必ず口腔ケアを実施している。うがいの出来ない方には、口腔用スポンジを使用し、食物残渣が無いが確認している。				食後には、利用者に声をかけ歯磨きをしており、職員は利用者の虫歯の有無や義歯の状態など口腔内の様子の確認し、状態を記録に残している。舌は、舌ブラシを活用して磨く介助をすることもある。利用者の認知症の進行により、痛みなどの訴えは少なくなっているが、事業所として口腔ケアを重要視した支援に取り組んでいる。必要に応じて、歯科医の往診につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	義歯の方には、毎日夕食後に洗浄してポリドントに浸け置きしている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問診療の際、正しい口腔ケアの方法を教えて頂き、実施している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後に、歯ブラシで洗浄し、夕食後には、ポリドントに浸け置きしている。介助の必要な利用者には、清潔を保てるよう支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	出来る方には、歯磨き・うがい等、なるべくご自分でして頂き、うがいが出来ない方には、口腔用スポンジやお口スクリシートを使用し、清潔を保っている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	痛みや不具合があった時は、ご家族に確認の上で早急に歯科往診して頂けるよう、対応を行っている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレで排泄可能な利用者ばかりなので、脚力低下を防ぐためにも、トイレでの排泄を促している。				職員は、トイレで利用者が排泄できるように支援している。以前は、おむつメーカーの担当者から、おむつなどの排泄用品の使用方法などの研修を活用したこともある。管理者は、自らおむつを履くなどの実習体験を経験したこともあり、利用者が置かれている立場や状態に合わせたおむつ必要性などをよく理解している。また、利用者のおむつ使用などの見直しがあった場合には、職員は家族に報告や相談をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	毎朝、排便チェックを行った上で、便秘薬で調整し、健康維持の為に、便秘にならないよう支援している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	時間を見て、定期的にトイレの声掛けや誘導を行うほか、不穏気味になったりする様子から、排便のタイミングを読み取る工夫をしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	トイレ内での動作(移乗や座位保持等)の安全性を確認した上で、トイレ誘導を行っている。状態によって、安全を確保できない時は、おむつを選択する事もあるが、出来る限りトイレでの排泄を促している。また、使用するパッドは、排泄頻度や吸収量から、スタッフ内で相談して随時調整している。		◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食事量・水分摂取量・運動量・服薬内容・排泄状況等を記録し、看護師・主治医とも相談して対応している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声掛けや誘導を行っている。	○	時間やタイミングを見ながら、トイレの声掛けを行っている。全盲の利用者もおられる為、温かい声掛けを行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	日動帯・夜動帯で使用するパッドは本人の希望を聞き、スタッフでも話し合いながら調節し、試している。ただ、乗者に一括して発注するため、本人の好みや排泄状況に若干合っていない可能性はある。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	その都度、本人の状態・排泄状況を踏まえながらスタッフ間で相談して紙パンツやオムツの使用をしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	朝の水分補給時には、牛乳も摂取してもらったり、レクリエーションで体操を取り入れ、少しでも身体を動かせるようにしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	その日の調子を見ながら、毎朝決めている。本人より希望ある場合には、可能な限り希望に応えられるよう支援している。		◎	○	利用者は、週2回を基本として入浴することができ、希望に応じて入浴回数を増やすこともできる。利用者の好みの湯の温度や一番風呂などの順番、湯に浸かる時間など、職員は利用者一人ひとりの希望を聞き、可能な範囲で対応ができています。職員は、利用者の身体の清潔保持にも気を配りながら、入浴支援ができています。また、家族のアンケート結果から、職員の入浴支援に安心安全を感じている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	1人ずつ、スタッフがマンツーマンで入浴している。足浴等も行って、リラクゼーション効果を得られるよう支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	自分で行えるところは、なるべく自分で行っていただくようにしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	一度、拒否された利用者には、時間をおいて声掛けしたり、他スタッフが声掛けしたりしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴される利用者のバイタルチェックし、その日の状態を観察しながら行っている。状態的に不安があれば、看護師に状態報告し、意見をもらって対応している。				

愛媛県グループホームユニットいよ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤者からの申し送り等を聞きながら、個々の状態を把握している。				職員は利用者の体調に考慮しつつ、日中は共用空間でゆったりと過ごせるように配慮している。レクリエーションの参加や屋上での散歩などを促して活動量を増やし、利用者が安眠できるよう支援している。現在、安眠のため薬を処方されている利用者もいる。服用している利用者にも、薬が効きすぎないように主治医や看護師と連携しながら、対応できている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	レクリエーション等の声掛けをして、無理のない範囲で体を動かしてもらい、日中の活動量を増やしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	申し送り等も参考にして、スタッフ・看護師・主治医と連携して支援している。主治医に相談するまでに、生活の中で出来る事を探したり、夜間の利用者への声掛けにも注意して利用者が安心感を得られるような支援をしている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者によって、午前・午後で居室で休んでいただけるようにしている。ホールで疲れた様子があれば、声掛けして心身を休める声掛けをしている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	管理が出来る利用者には、家族が携帯電話を預けて、連絡が取れるようにしており、毎日のように、息子さんと話をしている利用者あり。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	出来る利用者には促しているが、介助が必要な利用者には出来ない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	自分で管理できる利用者は、居室で好きな時間に連絡が取れるようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に必ずお見せし、自分から電話が出来るよう声掛け、支援している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	タブレットを活用して、お互いに顔を見ながら会話出来るようにしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	大切さは理解しているが、所持している利用者はいない。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	新型コロナウイルス感染防止の関係もあり、外出が出来ていないので、使う機会も無い。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	新型コロナウイルス感染防止の為、外出も出来ない。買い物先の理解を得るところまでは行っていないが、感染状況が落ち着けば検討したい。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	現在、利用者でお金を所持している方はいないが、本人や家族の希望、状況も踏まえて、再度確認しながら検討していきたい。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	必要な物があれば、購入するよう事前に家族に了解を得ており、実際に購入する際も家族に連絡した上で立て替えている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	現在、金銭を預かっている利用者はいないが、管理方法に同意を頂いており、立替金として請求し、了承して頂いている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族から相談があれば必ず聞き、事務局等にも確認しながら行っている。	○	○	管理者等は、「事業所として、利用者や家族からの要望があれば、できる限り対応できるよう、今後も努力していきたい」と考えている。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	お花を植えたり、玄関に壁画を貼り、エレベーターホールには、ウェルカムボードを置いて、親しみやすくしている。	○	△	○	玄関の入口には、きれいで色鮮やかな多くのコスモスの花が活けられており、来訪者の心を和ませてくれる。2階のエレベーターホールにはウェルカムボードが掲示されており、来訪者は一層の親しみ感が持てるような雰囲気づくりをしている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごうな設えになっていないか等。)	○	ホールには、利用者と一緒で作成した物を掲示したり、季節に合った花を飾ったり、新聞や本をすぐ見える場所に置いている。	○	◎	○	共用空間の壁には、利用者と一緒で作成した干支の作品や塗り絵、切り絵などが飾られている。廊下には手すりが設置され、歩行訓練などリハビリに活用している利用者もいる。感染予防対策等のため、職員は事業所内の換気にも気を配り、時間を見て窓を開けている。朝の光は必ずカーテンを開けて取り入れ、利用者の目覚めを助けている。掃除は職員や利用者も一緒に楽しみながら行い、清潔が保たれている。また、屋上では、犬や兔の飼育、プランターで野菜を栽培しており、海の景色の眺めも良く、利用者の癒しの空間としても活用されている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	照明を明るくして、定期的な換気を行い、毎日、拭き掃除も行っている。					
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	スタッフが持参した花を生けたり、壁画も季節・行事に合わせて演出している。					
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	席の配置、ホールにいても自分の好きな事が出来るように工夫はしている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	入口から見えるトイレには、中が見えないように、カーテンを付けて目隠しをしている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	特に入居時は、大きく生活環境が変わってしまう為、なるべく使い慣れた物や馴染みの物、家族や親戚の存在を感じられるような写真等を部屋に置いたり、飾ってもらおうお願いをしている。	◎		◎	居室には、ベッドや洗面台、クローゼットが備え付けられているほか、利用者の使い慣れたものなどを持ち込むことができる。誕生日やクリスマスのカード、折り紙で作った輪を飾ったり、コロナ禍の感染予防を祈願したアマビエの絵やカレンダーを飾っている居室もあり、自宅の一室で過ごしているような気持ちになれるような雰囲気づくりができています。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	居室入口には、了解を得た上で、お名前を表札のように掲示し、自分の部屋が分かりやすいようにしている。また、共用スペースであるホールには、大きく、日めくりカレンダーを掲示したり、季節感を感じられる掲示物を貼って、季節感と日時を認識できるよう配慮している。			◎	職員は自立した生活が送れるよう、常に利用者へ気配りを意識した支援をしている。トイレの場所を利用者に分かりやすく表示するほか、職員による見守りやサポート、誘導を行うなど、自分できることをしてもらいながら、少しでも自立した生活に向けて取り組んでいる。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	掲示物等は、なるべく見やすく分かりやすいような内容にしている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞紙や、雑誌、絵本、図鑑等をホールのテーブルにさりげなく置き、好きな時に自由に手に取って見られるようにしている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態でも暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	立地上、交通量の多い道路に面しており、以前、外への意識が強い方が落ち着かない際には、1F玄関のオートロックの他に、非常口ドアの施錠をしていた事もあるが、今はその方もたいぶ落ち着いてきた事もあり、施錠をしていない。ユニット入口も施錠せずに対応している。		×	×	○	事業所では、利用者の安全を第一に考え、交通量も多いことから1階の玄関は施錠しており、来訪者にはインターホンで対応している。帰宅願望があり外に出たい利用者には、管理者と相談して職員と一緒に付き添って買い物に出かけたり、屋上へ上がったりするなど、気分転換を図ながら心を落ち着けてもらう対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	状況により、安全確保の観点から、やむを得ず施錠の必要がある場合には、家族の他、運営推進会議等でも地域の方、市の担当課に説明を行い、理解を求めている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	1F玄関のオートロック以外は、日中の施錠をしないよう対応している。帰宅願望等が見られる利用者がおられたら、無理に屋内に留まってもらうのではなく、外出の支援をするようにしている。夜間、自室のカギを閉めて眠る方がおられるが、無理に抑制せず、尊重して対応している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	日々の申し送りで、医療連携シートの内容を確認し、現病についてもバイタル記録で確認できる。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	介護記録の記入に加え、注意や観察が必要な場合は、医療連携シートで申し送りし、経過観察をしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護職員が4名おり、ほぼ毎日誰かが勤務し、そのうち2名は医療連携看護師で、24時間相談可能な体制。スタッフから気になることなど相談しやすく、主治医への連絡も迅速に行える。スタッフとの関係も築いて、早期の受診や相談に繋がっており、重度化の防止が図れている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	医療連携シートで受診時の状況が確認でき、必要に応じて、主治医から各専門医への紹介など、家族とも相談しながらスムーズに対応できている。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族や本人の意向を踏まえ、かかりつけ医に相談できるよう、情報収集に努めている。状況によっては、医師と家族の間に入り、医師の説明を分かりやすく伝達したり、予め伺っている家族の意向を医師に報告する等の支援もしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	必要時は、主治医とのカンファレンスに繋げたり、チームで情報共有・相談を実施。家族や本人の意向に沿えるよう支援している。また、本人の状態や感染症発生状況により、通院方法等についての提案も随時行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時には、職員が付き添い、作成した入院時情報提供書を病棟担当看護師へ提出し、情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	こまめに地域連携室等と連絡を取って情報を確認し、早期退院に向けて準備している。退院が近くなれば、退院時カンファレンスに同席して情報収集し、受け入れ態勢を整えている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入院の可能性を考え、契約時から入院できる医療機関を家族に情報提供、提案し、訪問診療時等にも情報提供、指導を受ける事が出来ている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	看護職員が4名配置され、ほぼ毎日誰かが勤務しているので、細かな気づきも、医療連携看護師や訪問看護への相談・報告をタイムリーに実施。主治医にも急変予測・対応方法等の相談ができる。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	医療連携看護師が2名体制で、24時間いつでも気軽に電話相談が出来ており、必要に応じて、主治医への報告・相談を行っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日のバイタルサイン測定、定期的な体重測定、スタッフからの報告・相談、定期的な主治医の訪問診療等により、健康管理が出来ている。また、食事摂取量をバイタル表に記入しており、状況に応じて食事内容や食事形態の変更、補助食品を提供して栄養管理も出来ている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	バイタル表に服薬内容を記載し、薬局からの情報提供もファイリングしていつでも閲覧できるようにしている。開始時・変更時に申し送りで情報共有はしているが、全員が理解するには至っていない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬局の居宅療養管理指導に加え、服薬時の氏名確認もスタッフ2名がWチェックするよう徹底して誤薬防止に努めている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	特に、向精神薬や睡眠導入剤の服用開始時や変更・増量、減薬時には、状態観察を強化して、スタッフ間で情報共有している。症状の緩和・増強・変化・転倒のリスク等を主治医へ報告・調整依頼も出来ている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	下剤や血圧降下剤を服用している方など、バイタル異常時には看護師へ相談し、必要時は主治医に連絡・相談して調整している。				

愛媛県グループホームユニットいよ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居契約の際、医療連携看護師から、重度化した場合における(看取り)指針を説明、終末期における支援方法についても説明し、状態に変化があれば家族や主治医を交えてカンファレンスし確認している。	/	/	/	事業所では、訪問調査日の数週間前に看取り支援を経験してる。事業所には、「重度化した場合における(看取り)指針」があり、入居時に職員から利用者や家族に説明している。状態の変化があった場合には、家族と医師を交えて話し合い、方針を共有して支援している。看取り支援時には、主治医の診察のもと、利用者の苦痛の緩和や水分制限による痰の抑制など、利用者にとって安心した日々が送れるような支援をしている。家族や職員、医療関係者との連携が素晴らしく、身体的・精神的ケアをしながらスムーズに看取ることができ、家族から感謝の言葉をいただいている。今後も、事業所として利用者や家族の希望があれば、看取りを受け入れていく予定である。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	本人・家族に事業所として説明するだけでなく、状態変化があった場合や主治医または家族から希望があった場合にもカンファレンスを行い、医師からの状態説明、家族の意向確認等を含め、チームでの相談が出来る。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	状態変化について情報共有し、専門職である看護師への相談や主治医からの病状説明を確認した上で判断する。職員から不安や心配の声があれば、その思いを聞き、対策を検討している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居時・入院時・終末期において、重度化した場合の指針と一緒に、できること・できないことについても説明し、了解を頂くようにしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	本人・家族の想いに寄り添い、主治医に伝え、相談できる体制を構築している。今後予測される状態を共有することで安心してケアする事が出来ている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の想いや葛藤について、日頃から聞き取りし、寄り添い、信頼関係を築けるよう努力している。終末期には、本人と家族が向き合える時間を大切に出来るよう、出来る限りのサポートをさせて頂いている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	新型コロナウイルス感染症も含め、研修・実習を実施。嘔吐時や発熱等の症状出現時の居室対応などが実践できるようにし、予防への意識を高めている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症発生時の対応マニュアルを作成し、手順もポスターにして掲示。必要物品の確認や準備等、研修・実習が出来た。今後も定期的に行う。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	県内での新型コロナウイルス感染が発生する度に、外部からの立ち入り及び面会の制限等を迅速に調整・対応し、家族への理解を求めている。職員にもその都度注意を呼びかけ、感染リスクを減らせるよう個々の危機意識が高まるよう呼び掛けている。また、感染したり、濃厚接触者になった場合、接触した場合の対応等、職員の家族との接触に至るまで、速やかに周知・徹底している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	感染の流行状況について、法人全体での会議で共有、管理者や看護師より職員へ情報発信し、予防を呼びかけている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時に、上着を階下で脱衣し、体調確認表への記入、検温・手洗いうがいの励行、アルコール消毒液の設置を徹底。携帯アルコールを配布。面会者にも体調確認表に記載依頼し、面会も飛散防止シートを挟んで行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	生活動作を共にし、同じイベントを同じ目線で過ごすなど、日々の関りの中で、信頼関係を築いている。				家族の来訪時には、利用者と一緒におやつを食べたり、散歩や外出をしたりするなど、くつろげるよう支援しているほか、職員から声をかけ、意見や要望を聞くようにしている。夏の花火大会には、屋上を家族に開放して見物し、楽しい時間を過ごすよう支援している。現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため、外出の自粛や面会の制限が設けられていることもあり、遠方などの家族とタブレットを活用してオンライン面会ができるよう対応したり、電話連絡も取れるようにしている。近くに住んでいる家族からは、事業所への差し入れなどが頻りに届けられている。毎月家族には、事業所便りを送付しており、利用者の写真のほか、事業所での出来事や写真入りで職員の人事異動を掲載するなど、家族との会話にも力を注いでいる。また、外出は自粛しているが、屋上を活用して犬やうさぎと触れ合う時などに、利用者の活き活きとした表情が見られるため、今後、家族に屋上で撮影した利用者の写真を送付することを計画している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	本人の様子をたびたび伝え、コミュニケーションを大切にしている。また、コロナ禍においても、感染に注意しながら本人との距離を解消できるよう、タブレットや電話、飛散防止シートを用いた面会を実施している。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	新型コロナウイルス感染防止の為、自粛している。		○	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月、全家族にホーム内の様子を写した写真を載せて「いよ便り」を発送している。また、タブレットを使い始めてから、LINEを利用できる家族とはLINEで画像を送ったり、逆にひ孫さんの写真を送ってもらったり、交流を図っている。	◎			
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	情報を共有し、相談報告を密に行っている。報告だけでなく、家族の希望もお聞きするようにしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	家族の事を忘れてたり、変化している時は、家族の気持ちに寄り添い支援している。また、「家族に会いたい」と強く訴えあれば、近くであれば家族宅まで出かけて、会話の機会を持ち、利用者に安心して頂けるよう支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	毎月送付している「いよ便り」にて報告、電話や面会時にも必要な事をお伝えし、協力いただいている。		○	◎	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	現在のところ、家族会はできていないが、利用者や家族の意向も聞きながら検討したい。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	アセスメント情報をもとに、入居時の契約でリスクを説明し、入居後においても、状態によって起こり得るリスクを説明し、納得頂いている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には、スタッフから様子を伝え、家族には気になる事や希望・想いをお聞きしている。また、タブレットの導入により、さらに気軽にコミュニケーションがとれるようになった。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時は、なるべく2名体制で説明を行い、家族が理解しやすいよう説明を心がけている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居になる場合の条件について詳細に説明している。本人希望時もそうだが、事業所側の判断で退居になる場合についても、その条件を詳細に説明している。また、必要時は居宅介護支援事業所や地域包括支援センターにも相談しながら対応する体制がある。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	介護報酬の改正時や消費税の増税、物価変動に伴う料金変更時など、料金が変わる際は、必ず文書で説明し、同意署名を頂くようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	開設当時から続けている運営推進会議において、事あるごとに説明し、理解を求め、協力を依頼している。	/	○	/	法人・事業所として、町内会に入会している。今後、管理者等は回覧板を活用した地域との関わり方などについて検討し、より地域に密着した事業所を目指して役立てていくことを考えている。現在のコロナ禍では、ボランティアの受け入れ中止など地域との交流や関わり方は難しいが、終息後には従来どおりのかかわりを予定している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	今年度は、新型コロナウイルス感染防止の為、外部との関りが持てないが、昨年度までは近隣の方のご挨拶に始まり、夏祭りの参加、秋祭りへの招待、運動会での幼児園との交流の他、県の委託事業にも積極的に参加し、地域との触れ合いを大切にしていた。	/	△	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	地域の方やボランティアの受け入れを積極的に行ってきたので、そこからコミュニティが広がっている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	普段はあまり無いが、運営推進会議や行事の際には気軽に立ち寄れるよう、お知らせや案内を配布している。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	近所で会ったり、避難訓練や運営推進会議でお会いする度に声を掛け合い、良好な関係を続けている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	例年なら、地域のボランティアも複数来られたり、地元の中学生や高校生がボランティアに来てくれ、利用者との交流が持てている。昨年は、松山市の中学生も体験に訪れ、お互いに貴重な触れ合いと体験が出来た。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	様々な地域資源を活用できるよう、把握に努めている。昨年は、近くにある健康センターでのCAFEに参加してみんなでカレーを食べて帰る事もあった。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	伊予地区グループホーム協議会の定例会への参加、行事ごとに色々な店舗で案内の掲示、秋祭りでは地元業者にうどんやおにぎり等の注文や調理器具のレンタル、地元の理容店の出張理容、消防署員を招いての避難訓練や救急救命講習等、様々な方々と触れ合い、協力を頂いている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	今年度は、新型コロナウイルス感染予防の為、会議は開いていないが、行政に確認の上、これまで同様に2ヶ月に1回は、地域の方や行政に運営状況をお便りでお知らせしている。	x	/	△	運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、市担当者等の参加を得て開催している。会議の開催時には、すべての家族に案内を出し、家族アンケート結果からも、運営推進会議の開催に理解が得られていることが分かる。会議では、事業所内の行事や利用者の様子を報告するほか、外部評価のサービスの評価結果などを報告している。また、会議に合わせて避難訓練を実施したり、チャアー・ヨガなどを取り入れたりするなどの内容の工夫をしている。会議を積み重ね、地域との関係が深まり、利用者のサービス向上につながっている。会議などを通して、地域での事業所の評判が広まり、入居希望の相談につながったケースもある。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	過去の外部評価後にも、結果をご報告し、ご意見を頂いている。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	コロナ禍においても、運営状況のお知らせとともに、地域の方からの質問や意見、感想を受け付けており、その都度改善し、その結果についても次回報告する形をとっている。	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	前年度は、来所頂いているボランティアの方、避難訓練時には消防署員、また、市議会議員さんにも参加頂いた。雰囲気を変えて、地元商店街内の古民家を利用して開催した際は、法人内のGHと合同で交流を持った。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	コロナ禍になり、より詳細に事業所内の雰囲気や伝わるよう運営状況を記載して、各委員に情報提供している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	「悔いの残らないようお世話させていただきます」という法人の理念のもと、職員全員の投票で決まった、事業所でのケア理念「和かい言葉、温かい雰囲気、安心できる居場所」を利用者の生活に取り入れ、実践・継続できるように、申し送りでも唱和している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	面会スペースとなる2Fホールや1Fホールに法人・事業所両方の理念を目に入りやすい場所に掲示し、その都度説明を行っている。	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	職員一人一人の専門性の向上、スキルアップが利用者への穏やかな支援に繋がる事から、外部からの研修招致、各職員が研修参加できるよう予算も計上している。	/	/	/	代表者は、年2回職員との面談を実施し、職員の意見を傾聴して働きやすい職場づくりに努めている。法人・事業所として、職員には内部研修を実施するほか、外部研修等に参加することができ、法人として参加費用も助成している。また、代表者は事業所にもよく顔を出し、職員や利用者への声をかけも優しく、管理者や職員からも相談することができている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	入社時には、法人管理職から、新人研修プログラムとして、介護職に求められる事や、法人としての倫理観等を伝えたり、外部から、各テーマに沿った専門講師を招いて職場で勤務時間内に受講できるよう配慮している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	職場環境は、利用者も職員も安心できるような整備を心がけ、職員一人一人の自己評価・管理者評価をもとに、条件に反映。事業所が算定できる最大の(特定)処遇改善加算を算定し、職員へ還元できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	伊予地区グループホーム協議会、グループホーム間の相互研修、認知症介護実践者研修、管理者研修、リーダー研修等も費用を会社で負担し、同業者との交流を推奨している。また、市町が主催する連絡会や研修活動では、介護労働安定センターと密に連携を図っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	ストレス軽減のための研修開催やアンガーマネジメントの実践等、積極的に行っている。	◎	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	定期的に委員会を開いたり、内部・外部研修を行う事でどんな行為が虐待や不適切なケアにあたるか学んだり、客観的に自身のケアを振り返りスタッフ全員で考える機会を大切に継続して虐待防止に取り組んでいる。研修ごとに報告書を提出し、全員が読み返せるようにしている。	/	/	/	職員同士の関係性は良好で、できていないことをカバーし合うことができ、些細なことでも改善すべきことは話し合い、より良いサービス提供につなげている。虐待防止などをテーマに取り上げて、定期的に内部研修を実施しており、出席できない職員のために研修内容をまとめた資料を作成し、職員間での確認や理解できるように努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	その日にあった特別な事は、記録に残し、申し送りで伝える事で、スタッフ全員が共有できるようにしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	朝の申し送り等で理念や目標を確認・唱和し、常に意識できるようにしている。また、ケアもスタッフ同士で声を掛け合ったり、申し送りやカンファレンスでも話し合っている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	スタッフが困難だと感じている事があれば、スタッフ同士で相談しあったり、ケアを交代したりできる関係である。リーダーや管理者にも気軽に相談できる。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	各事業所に、自社で整備した「身体拘束等の適正化のための指針」を保管しつつでも確認できるようにしている。身体拘束の事例があれば、定期的に確認し、必要性について検討している。内部・外部研修も行い、資料を共有。新人スタッフにも引き続き伝えていく。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	現在、ベッドからの転落防止の為、ベッド柵をベルトで固定している方がいるが、毎月、積極的に拘束廃止に向けての話し合いをしており、スタッフ全員が身体拘束にあたる事を理解している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束を希望する家族はいないが、毎月の話し合いや家族への報告も行って、拘束廃止に向けて取り組んでいる。仮に今後、要望される家族がおられても、原則禁止についてしっかりと説明を行う。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	管理者等は理解しているが、他の職員は理解出来ない人もいる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	現在は無いが、もし必要性のある方の場合、情報提供を行っていく。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要性のある方がおられたり、本人や家族から相談・依頼等があれば、社会福祉協議会等へ連絡を行う。法人内のグループホームでは、日常生活自立支援事業を利用されている方もおられる。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	急変時のマニュアルを作成し、スタッフに周知し、閲覧できるようにしている。新しいスタッフが多く、周知できていない部分も多く、看護職員に頼る場面も多い。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	マニュアルはいつでも閲覧できるようにしているが、定期的な訓練はなかなか出来ない。昨年度は、消防署指導のもと、普通救命講習を受講している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットの事例を申し送りファイルに綴じて、職員間で注意を促している。事故発生後は、早急に現場検証とカンファレンスを開催し、原因の究明と対策を徹底している。事故報告書は法人にも提出して共有、管理職からも指導をもらい、今後の対応に反映させている。家族には真摯な説明と謝罪を伝え、改善に向けた動きを心がけている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	毎月、安全委員会を開き、1ヶ月間のヒヤリハット・アクシデントを振り返り、その後の改善が出来るかどうか、評価している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	家族への対応等、常に支援について振り返り、マニュアルを見返して、対応方法を検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情発生時には、ただちに管理者・代表者に報告の上、対応を協議。手順に沿って対応し、必要があれば市にも報告出来ている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情や不満、要望が無いが、定期的に家族に確認している。また、無記名で投函できるよう苦情を受け付ける箱を入口に設置し、苦情があればすぐに検討できるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	挨拶を始めとして、利用者との会話を大切にしている。利用者が気軽にスタッフに想いを伝える事ができるように、声のかけ方、雰囲気、目線等に気を配っている。			◎	日々の生活の中で、職員は利用者からの貴重な意見や要望を傾聴するほか、話すことができない利用者からは表情等から汲み取るよう努めている。家族からの意見にも、継続して耳を傾け、職員はコミュニケーションが取れる場面づくりなどを工夫し、面会や電話連絡の機会を逃すことなく意見を聞くよう気配りをしている。また、職員からは、管理者が申し送りなどを活用して、積極的に意見が出せるよう留意している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	家族とのコミュニケーションが図れるよう、面会やお便り、電話で情報を伝え、要望等お聞きする機会を大事にしている。	○		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族から相談があった場合には、必要な窓口をお伝えするなど、情報共有を図っている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	代表者は、月に1回、管理者会で事業所の様子を把握する他、事業所に顔を出して、設備等の確認も行っている。また、必要に応じて、職員個人との面談を行っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	朝・夕の申し送り、それぞれの意見を把握し、支援方法について伝達。常に、法人理念と事業所のケア目標を意識し、利用者本位のケアを目指している。			◎	

愛媛県グループホームユニットいよ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	各職員が、年に2回、自己評価を作成・振り返りを行い、上司が評価とコメントを記載している。自己評価をもとに、管理者が個別に面談を行い、サービスの向上、個々のスキルアップに繋げている。				職員全員で、外部評価の自己評価に取り組んでいる。運営推進会議の中で、サービスの評価結果や目標達成計画の取組み状況などを報告している。運営推進会議に参加していない家族もいるため、管理者等は家族アンケートの質問項目にもある「サービス評価の結果や今後の取り組みについて知っていますか」という設問の意味についても事業所として考え、家族にきちんとした丁寧な説明を予定としている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	自己評価の項目を職員が協力して作成。評価を通して必要な事を再確認。課題も明確になり、学習の機会になっている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	事業所全体で取り組んでいる。新人職員も含めて、評価を伝え、次の計画作成に活かせるようにする。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	コロナ禍においては、毎月のお便り・運営推進会議で、評価結果や目標達成計画を紙面で報告する。	x	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	運営推進会議で随時報告している。朝の申し送りでも確認するようにしている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	色々な想定で、訓練を行っている。災害はいつ発生するか分からないので、備品も常に保管している。				年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。訓練は運営推進会議と合わせて実施していることもあり、定期的に地域住民等の参加協力を得ることができている。管理者等は、地域とより盤石な協力体制を深め、連携した災害への備えの充実を目標としている。今後は、事業所の防災計画や災害時の対応についても、家族に知らせることを予定している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年に2回以上、日中と夜間での想定で訓練をしている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	スタッフ全員に、置いてある場所を周知している。点検や賞味期限のチェックも行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	非常ベルを押すと、近所の方にも自動的に連絡が届くように設定している。訓練にも参加して頂いている。	x	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	消防署の訓練にも参加し、地域の自治会等の訓練にも参加した。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	家族以外への情報発信は、なかなか出来ていない。運営推進会議のメンバーには、取り組みについて、情報提供をしている。				法人・事業所として、町内会に加入していることもあり、管理者等は、「今後回覧板を活用して、地域住民に高齢者等の相談支援に応じれることを知らせていきたい」と考えている。日頃から、市介護保険課や長寿介護課、地域包括支援センターとは、問い合わせや連絡をするなどの連携が取れている。幼児園児との交流や中学生の職場体験、様々なボランティアを受け入れるなど、地域の関係機関や団体との交流を重ねている。現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため、ボランティア等の受入れは中止している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	相談の窓口を設置している。個々のニーズに合った支援を行っている。		x	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	例年は、秋祭りを行い、地域の方との交流を行っていたが、今年度は、新型コロナウイルス感染防止の為、行事が出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	前年度、松山市の中学校から、5名が体験に来られ、車椅子に乗って、移動介助の実習や感想を話し合った。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	今年度は、新型コロナウイルス感染防止の為、行事や運営推進会議も顔を合わせた実施は出来ていない。今後、状況が変われば、家族も参加しやすい土日祝等に開催できればと考えている。			○	